



ご存知ですか？

「家族物語」は、女性スタッフのみで お手伝いをいたします。

ご葬儀を終えられたご家族にお話をお伺い致しました

Interview vol. 12



小室 久美子 様

突然の別れ

喜寿を迎え、そろそろ自分たちの最期を考えていかなければと思っていました。ある日、郵便局に出向いた際、いわさきのスタッフさんたちがチラシを

配っていました。その時の女性スタッフの対応が素晴らしくて、この人たちならきっと親身になってくれるだろうなと何気なくチラシを頂いて帰りました。考えなければと思っている矢先、主人が倒れてしまいました。突然の別れでした。

初めての葬儀

全てが初めてのことでした。急な別れで気持ちの準備のない状態でした。携わってくださったスタッフの皆様は、主人が亡くなった翌日から手取り足取り丁寧な段取りをしてくれたので、安心してお任せすることができました。



女性の納棺師

自宅にて家族みんなで主人の納棺を行いました。女性の納棺師さんが主人にも私たち家族にも優しく接してくださいました。その温かな対応で孫たちも皆全員で主人にたくさん触れてお別れすることができました。逝去から葬儀まで日にちがりましたが、最後のお別れの時まで亡くなった時のままのきれいな姿でびっくりしました。

ラストコンサート

主人には生前いろいろな趣味がありました。その中でも「ハワイアンバンド」に力を注ぎ作詞作曲から演奏まで行っていました。そのお話を担当の方にしたところ、故人らしい葬儀をと入口の看板から祭壇まで全てハワイアンで作っていただきました。ハワイに行きたいと言っていた主人を最後にハワイへ連れて行ってあげられたような気がしました。

中でも故人を偲ぶスライドショーは主人が歌っているハワイアン曲を取り入れて、最後に主人の声での「アロハ」は、まるで参列していただいた沢山の方へ最後の挨拶をしているように思えました。



女性ならではの安心感

打合せから葬儀まで女性職員が担当をしてくださいました。男性だと身構えてしまうこともありますが、全てのスタッフが女性でしたので意外性はありませんが雰囲気柔らかさや心配りに安心して葬儀に臨むことができました。故人に合った葬儀ができたことで心残りもなく満足感さえ感じました。本当に感謝しています。

Interviewer 清水 陽子